

コ ラ ム

国際会議の紹介：IAVD Congress
on Vehicle Design and Component

本 庄 徹*

IAVD とは、International Association for Vehicle Design の略で、本会議は毎年春にスイスのジュネーブにて開催されることになっている。1985 年で第 2 回と歴史は浅いが、第 1 回は約 150 名、第 2 回は約 250 名の参加があつた。欧米・日本を中心にインド・エジプトの参加もみられ、自動車・鉄鋼・化学等の指導的立場にある会社が多数参加している。

会議は、Opening & Plenary Session で始まりその後参加者は各セッションに別れて討論にはいる。セッションは 9 つに別れており、工場の設計からエンジンなど自動車部品に至るまで、自動車工業のすべてを含んでいる。著者の参加した第 2 回会議の材料のセッションを例にとると、報告件数は 20 でその内訳は表 1 に示すとおりである。自動車の材料は多岐に渡るため、発表内容もバラエティーに富んでいる。その中で鋼板関係は 8 件と最も多く、しかもその内 5 件は日本の鉄鋼メーカーからの発表であつた。

表 1 材料のセッションにおける発表内容

内 容	件 数
プラスチック	2
エンジンのシーラー	1
接着剤関係	5
粉末金属	1
鋼板(含表処材)	8
エンジン材料	2
アスベスト	1
計	20

* 川崎製鉄(株)鉄鋼研究所

発表内容は、開発したシステム・製品に関するものが多いため、聴講する側にとつてわかりやすいようにスライドもカラー化されたものが多く、説明も丁寧である。一方、質問内容も物を作ることを前提としているために、会議でおこなわれる議論は極めて具体的でわかりやすく、白熱した雰囲気でおこなわれる。

本会議出席の楽しみは数多くある。昼食は一堂に会して、自由にテーブルにつく。そして、日本人の感覚から言うと少々量の多い食事を、1 時間たつぶり時間をかけてとるのだが、回りの人との楽しい会話で知らないうちに食べおえている。発表会場での緊張が和らぐ一瞬である。もちろんそのくつろいだ雰囲気の中で、会議の席上とは異なる情報収集に余念のない人も多い。また、夕食後のレマン湖ほとりの散歩は、一日の会議をおえて少しアルコールがはいった頬に、まだ冷たい 3 月の風が心地良く、著者のジュネーブでの忘れられない思い出の一つである。

本会議参加の特典に、同時期に開催されるジュネーブモーターショーを一般公開に先駆けて入場することができる。このショーは、ミラノ・ロンドンとともにヨーロッパ三大モーターショーの一つとして有名で、ヨーロッパ各地より多数の入場者がある。ヨーロッパおよび日本のすべての自動車メーカーの新車を人込みに紛れることなく、ゆつたりと見ることができ、自動車関係にたずさわる者として非常に参考になる。

本会議は、今後ヨーロッパにおいてアメリカの SAE に相当する会議として重要度が増していくと考えられる。第 3 回会議は、1986 年 3 月 3~5 日にジュネーブにて開催された。問い合わせ先は下記のところである。

Dr. M. A. DORGHAM

Chairman of I.A.V.D. Congress Organizing
CommitteeThe Open University, Walton Hall, Milton
Keynes, MK76AA, UK.

Telephone : 0908 653945 Telex : 825061